

土木工学・建築学委員会
インフラ健全化システム分科会（第23期・第8回）
議事録（案）

資料 1

日時：平成29年1月23日（月） 15:00～17:00

場所：日本学術会議6階 6-C（1）会議室

出席者：依田照彦，家田仁，小林利光，栗本史雄，落合英俊，嘉門雅史，前川宏一，小林潔司，桑野玲子，小峯秀雄，石尾航輝（日本学術会議事務局）（順不同、敬称略）

傍聴人：平野勇（応用地質），大塚康範（応用地質），松浦一樹（ダイヤコンサルタンツ）、大井昌弘（防災科学技術研究所）

配布資料

- 資料1 第7回インフラ健全化システム分科会議事録案
- 資料2-1 シンポジウム企画原案
- 資料2-2 地質地盤の動向（栗本資料）
- 資料2-3 官民データ活用推進基本法の概要
- 資料2-4 インフラメンテナンス国民会議
- 資料3 分科会報告（修正案）
- 資料4 委員名簿（インフラ健全化システム分科会）修正
- 資料5-1 土日祝におけるシンポ・講演会等の開催について
- 資料5-2 高速道路と自動車2017年1月号
- 参考資料1 地下空間の利活用に関する安全技術の確立について

議事

事務局の石尾氏よりご挨拶があった。

1. 第7回インフラ健全化システム分科会議事録案の確認

依田委員長より，資料1を用いて前回の議事内容の紹介があり，一部，委員からの修正点の説明も含め確認がなされた。以上を踏まえ，議事録を確定した。

2. シンポジウム企画原案の審議

依田委員長、栗本委員、家田副委員長より資料2-1～4に基づき，シンポジウム企画原案およびその背景について説明があった。また，シンポジウム企画案について審議し，日程候補日、プログラム構成、登壇候補者等、企画概要を決定した。

- ・ 博多陥没事故をきっかけに、国交省で地下空間の利活用に関する安全技術の確立に関する小委員会が設置され、2月初めから審議が開始される。その中で地質・地盤データの共有化がとりあげられる見込みである。
- ・ シンポジウムでは、地質・地盤データの共有化を目指した強い意志を提示するものとし、データ

共有化の必要性とメリットやこれまでの経緯とその際の苦勞（基調講演）、地下空間利用の際の安全技術の確立に向けた動きをそれぞれ1時間ずつ講演いただき、その後、パネルディスカッション形式でデータ共有化に向けた具体的な課題やプロセス等について議論する。

- ・ プログラム案および分担については以下の通り。

		分担（敬称略）
タイトル	地質地盤情報の共有化を目指して —安全安心で豊かな社会の構築に向けて—	依田、嘉門、栗本
日時	4/26 午後（第1候補）、4/27（第2候補） その後の調整で、 <u>4月27日</u> 午後 <u>に決定</u>	全体の日程調整は桑野
場所	日本学術会議講堂	依田
主催	日本学術会議 土木工学建築学委員会インフラ健全化システム分科会	依田
後援	国土交通省、経済産業省、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本不動産学会、日本地質学会、全国地質調査業協会連合会	国交省、土木学会、日本建築学会（依田）、地盤工学会（桑野）、全地連、経産省、不動産学会、日本地質学会（栗本）、
開催趣旨	安全安心な社会の構築、というコンセプトを前面に打ち出す	依田
プログラム （時間は未定）	司会：桑野玲子 13：30 開会挨拶：依田照彦（5分） 講演1（地質地盤情報の共有化について）：栗本史雄 講演2（地下利用に関する国の審議状況（進行形）について）： 大西有三（京都大学名誉教授） 15：45 パネルディスカッション モデレーター：嘉門雅史 パネリスト：飯尾潤（政策研究大学院大学）、宇賀克也（東京大学）、北田奈緒子（地域地盤環境研究所）、小林潔司（京都大学） 17：35 閉会挨拶：家田仁（5分）	登壇者への依頼・調整は以下の通り分担する 大西、北田：嘉門 飯尾、宇賀：家田

- ・ 栗本委員より基調講演の内容、タイトルをいただき開催趣旨を固めるのと並行して、各登壇者への依頼・調整を進め、シンポジウム内容を確定する。

3. 分科会の報告（修正案）に関する審議

資料3により、依田委員長より、報告（修正案）が紹介された。

4. その他、関連情報

- ・ 資料 4、および 5 について依田委員長より説明があった。
- ・ 小峯委員より、インフラ関連データの共有化の次に考えるべきものとして、モニタリングについて問題提起があった。

5. 今後の予定

次回分科会

2017 年 4 月 26 日（水）または 27 日（木）（シンポジウム当日） 12：00～13：00

（その後の調整で、4 月 27 日（木）12:00～13:00 に決定した。）

以上